

和の光

宝塚市立西谷中学校



夏休みの課題「人権作文」より
～後悔が未来に残らないように～

1年生 女子

いじめって何だろう。そう考えてみると、なかなか答えが出ません。みなさんは、いじめはどういったものだと思いますか。

例えば、AさんがBさんに対して殴っている。暴言を吐いている。この場合は明らかにいじめているでしょう。ですが、本当に暴力・暴言だけがいじめなのでしょうか。私は他にももっとたくさんのいじめがあると思っています。

言葉によるいじめ、態度によるいじめ、精神的ないじめ、持ち物に関するいじめ、犯罪まがいないじめ、ネットいじめ、少し調べただけでも、これだけのいじめが出てきます。

これらは、怪我を負うほどの傷をつけるものではないかも知れませんが、心を大きく傷つける行為です。いじめが原因で不登校になったり、精神的な後遺症が残ってしまったりと、加害者の知らないところで被害者は苦しんでいるのです。だから、いじめはこの世界から消してしまわなければならないのです。

ここで、私には一つ疑問があります。なかなか「やめて」、「嫌だ」と口に出ることが出来ない子がいます。「嫌だ」と言えば、いじめがもっとひどくなるかも知れないと、大人に話すことをためらうことだってあります。それに関わらず、大人は「嫌なときは相手に嫌だと伝えようね」いじめた側は「やめて、と言わなかったから」と言います。嫌だと言わないのじゃない、言いたくても言えないのに。大人たちは、なぜ簡単に「自分の気持ちを言いなさい」と言うのか。子どもにとっては、それが一番難しいのに。

そもそも、なぜいじめが起きるのでしょうか。原因はいじめる側のストレスや不安からではないかと私は考えます。いじめをするにあたって、はやし立てる人間が必ず一人は出てくるものです。そういった人たちが、いじめる側の承認欲求を満たすような行動をしているのかも知れないですが、はやし立てることがどれだけひどいことなのか、少しでも理解できるように、周りの人たちが積極的に声をかけられるよう行動していけるといいと思います。本当に少しずつでもいいので、ただ見ているだけでなく、いじめを止めるための行動を心掛けていけると、いじめられている人は救われると思います。



夏休みの課題「人権作文」より
～差別をなくすために～

3年生 女子

「部落差別」私はこの言葉を中学生になって初めて聞きました。道徳の授業で部落差別について学び、実際に体験した方から話を聞くうちに、部落差別を受けた人たちが持つ無念さを強く感じました。

江戸時代の日本は身分制度で農民や町人など、身分がはっきりと分かれていました。その中で、農民や町人とは別に置かれていたのが「穢多」や「非人」と呼ばれる人たちです。この人々は、貧しいという理由で差別されたのではなく、職業や住んでいる場所によって差別されてきたそうです。差別されながらも行っていた仕事は、動物の死骸の処理や動物の皮を利用して太鼓をつくるなど、生活には欠かせない役割を担わされていました。ですが、当時は血や死骸などの「死」に繋がるものは「穢れ」とされ、避けるようになっていったそうです。このように、何も悪いことをしていない人が、誰かの発言や噂で悪いイメージを持たれてしまうことは、今の社会でも多くあると思います。自分一人の考えで勝手なイメージを持つのではなく、相手のことをよく考える必要があると思います。また、差別は一人だけの考えや行動で始まるのでしょうか。一人の人が間違っただけで、自分とは対照的な人に対して持っている印象を勘違いしたまま他人に伝えることにより、複数の人からの差別が始まるのではないかと思います。そのため、噂や情報を受け取った側も、その情報を鵜呑みにするのではなく、その情報が本当に正しいのかどうかを見極めることで誤解を招かずに済むのではないのでしょうか。

このような差別は昔の人だけがされていたのではありません。差別をされていた人の次の世代にまで差別は続いています。大きな問題として、結婚や就職が挙げられます。結婚したいと思っていても「差別されていた地域に住んでいた人だから」という理由で反対されることも少なくないそうです。生まれ育った環境によって、自分の望みが叶えられないのはとても悲しいことだと思います。差別されている人に、悪いところや差別される理由は何もないのです。問題があるのは、差別をしてきた人達で噂や情報に惑わされていたことだと思います。どのような場においても、一人の人が言っていることと、大勢の人が言っていることを比べると、大勢の人が言っていることの方が説得力があります。だからと言って、何も考え直さずに大勢の人の意見に賛成してしまうと、また新たな差別を生むことになるかも知れません。

新たな差別を生まないためにも、今ある差別を少しでも減らすためにも、多くの人や情報に影響されるのではなく、自分の考えをしっかりと持つことが大切だと思います。そして、些細なことでもこれをしたなら相手はどう思うのかと、自分の行動に責任を持つことで理不尽な差別がなくなって欲しいと思います。



■思春期講座～性の自己決定力を付けよう～（全学年）

6月27日に尾澤み子さんを講師にお招きして思春期講座を行いました。前半は全学年を対象に、「HIVとAIDSのちがいは？」「ウイルスとは何か？」「ウイルスが感染するときの経路」について説明を受けました。

- ・HIVの「3つのう」について、
「うつさない」・・・性行為をしない
「うつらない」・・・コンドームを付ける
「うつさない」・・・検査を受ける、コンドームを付ける



HIVって何、AIDSって何、熱心に説明を聞きました

後半は、3年生に向けて、対人距離の取り方、自分自身と相手の体を守るためにも男女ともに性行為についての正しい知識が必要であることをお話ししていただきました。

- ・女子生徒に対して、
性行為をした場合は妊娠することと考えて、今後のライフプランと合わせて性行為をするときは相手に正しい知識があるのかどうか見極めること。
- ・男子生徒に対して
相手を傷つけないために、コンドームの正しい知識が必要であること。

講師の方のお話は、普段話せない、聞けない、深い内容で、具体例や実例も混ぜて話してくださいだったので、生徒たちは食い入るように話を聞いていました。貴重な講話をいただいた尾澤先生には心よりお礼を申し上げます。

★AIDSは、言葉だけを知っていて、意味などは詳しく知らなかったもので、今回の授業で知ることができて良かったです。男子は感染させる力が強くて、女子は感染しやすいので、しっかりと対策をしないといけないことが分かりました。性行為をするときは、相手と同意することは絶対だけど、両者とも未来のことを考えて出産できることを考えてからすることが大切だと思います。（女子）

★本日はお忙しい中、私たちのために大切なお話をしてくださり、有難うございました。HIVやAIDSの感染経路について教えていただき、しっかりと知識を持つことが自分とパートナーを守ることに繋がると感じました。（男子）

★今回の講演を受けて、自分が知らない言葉や病気のことについて詳しく知ることができて良かったです。これからは、今まで以上にたくさんの人と関わる機会があると思います。そこで性行為を誘われたとき、軽い気持ちで受け入れるのではなく、相手が自分のことを大切にしてくれるのかを見極めて、自分の体を守っていきたいです。知識を深め後悔しないようにしたいです。（女子）

★僕は今回の講演で性行為には同意やお互いにそれなりの覚悟が伴うことを知りました。それに男性は女性に感染させてしまう立場にあることを自覚し、検査などを受けておくことの大切さも知りました。避妊やもしもの時の知識を女性だけにおしつけるのではなく、男性も知識をしっかりと身に付けておく方が良いと思いました。（男子）

★AIDSという言葉は聞いたことはあったけれど、どのような病気か知らなかったもので、良い機会になりました。昔、AIDSはとても大変な病気で命を失う人が多かったけれど、今は年間の死亡者は3～4人と知り安心しました。心に残ったのはOちゃんの話です。HIVがいるからといって差別されるのは悲しいです。この講演会でいろいろなことが学べました。（女子）

★病院の中で、AIDS患者が差別らしきことをされたと聞いて、とても心が痛みました。今はどうかわからないけれど、AIDSについての正しい知識を世界中の人たちに知ってもらいたいと思いました。（女子）



対人距離の取り方についての寸劇